

◇土木費

除雪体制について

「市道除雪費」の補正回数と補正額、決算額の 5 年間の推移は、下記のようになっています。

年度	補正回数	補正金額	決算額
平成 24 年度	3	5 億 5 千万円	9 億 6570 万 7 千円
平成 25 年度	1	1 億 5 千万円	5 億 9051 万 5 千円
平成 26 年度	4	7 億円	11 億 3079 万 8 千円
平成 27 年度	3	5 億 5 千万円	10 億 4922 万 1 千円
平成 28 年度	2	4 億円	8 億 7385 万 4 千円

除雪はその年の気象状況によって、除雪、拡幅、排雪及び吹雪対応などで大きく左右されるため、大きな不要額を生む可能性があることから、当初予算では除雪に最低限必要な経費を計上。補正が必要になった時に、担当部署と協議を行い、補正予算を組んでいるという訳です。

市の除雪は、一部直営と市内を 7 ブロックに分割し、共同企業体で実施している。共同企業体を構成する業者総数は 65 社。各ブロックに重複している業者を除くと、実質 57 社で除雪作業を実施していますが、除雪する道路のキロ数と除雪台数は下記の表の通りです。

市街地

	直営	東部地区	北部地区	中央地区	西部地区	南部地区	合計
車道除雪延長	11.9 km	145.0 km	157.5 km	167.7 km	185.4 km	183.1 km	850.6 km
歩道除雪延長		118.7 km	84.0 km	1011 km	74.7 km	74.7 km	453.2 km
除雪台数	9	42	48	41	41	35	216

農村部

	川西地区	大正地区	合計
車道除雪延長	304.7 km	196.4 km	501.1 km
歩道除雪延長	5.9 km	8.4 km	14.3 km
除雪台数	18	15	33

249 台、これに歩道除雪のハンドガイド 8 台を含むと合計 257 台。

質) 3 月 1 日に 4 7 c m の降雪があったが、当日の気象状況と作業状況について伺う。

答) 3 月 1 日の気象状況は 7 時から 2 1 時まで 4 7 c m の降雪があり、除雪作業は生活道路、歩道を 1 5 時から実施し、幹線道路は 1 9 時から予定していたが、交通渋滞や車がいた所で立ち往生しており、救出しながらの作業となったため、多くの路線で 2 1 時以降の除雪となり、完了したのは、翌日の 3 月 2 日 1 7 時となった。

質) 3 月 1 日の気象状況、交通渋滞や立ち往生があったにせよ除雪時間が長い。交通渋滞や立ち往生、事故の無いように実施するのが除雪ではないか？

帯広市の大雪に対する体制は充分なのか認識を伺う。

答) 現在の除雪体制は、1 0 ~ 2 0 c m 程度の新雪除雪を 1 0 ~ 1 2 時間程度で完了できるよう、必要台数を確保し、除雪に当たっているのが実情である。今回のような大雪になると除雪時間を要しているが、大雪に備えた体制となると、新たな機械台数や人員の確保が必要となる。

大雪に備えた体制の強化は、近年、公共事業の減少などにより、業者自体が除雪車両やオペレーターを確保することが、非常に難しくなっていることや、体制を維持するために必要な経費が大幅に増えることもあり、難しい状況にあると認識している。

平成 29 年度は 11 月から気温が低く、雪も多く、大変な冬でありました。除雪の出動基準は 1 0 - 1 5 c m。「除雪実施計画」の「除雪出動の基準」に基づき、「最終降雪量」「降雪の時間」「時間最大降雪量」「雪質と降雪後の天候や外気温」などの気象情報と、道路パトロールや各地区の委託業者の情報をもとに、総合的に判断している。ということになりますが、その判断によって出動回数も定まり、市民の足や生活道路の状況が大きく変化します。

3 月の大雪はまさに災害レベルのものであったと感じるところ。

これをしっかり検証し、来年の対策に活かすと同時に、気象の変化に伴い予算の考え方なども今一度検討する必要性について求めました。

雨水樹の管理体制について

雪解けの水や雨水を吸い込む雨水樹は約 4 万個設置されています。これが詰まると機能が果たされず道路が冠水するなどの影響が見られるわけですが、「市道維持補修費」2 億 2877 万 9 千円のうち 527 万 2 千円が雨水樹清掃の予算額に充てられています。

雨水樹清掃数は、

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1, 8 5 6 個	1, 7 5 7 個	2, 2 3 3 個	2, 1 9 2 個	1, 9 6 6 個

道路パトロールや住民からの情報提供などにより、道路排水の呑み込みが悪くなっている雨水樹を選定して実施しているが、大雨時において、雨水樹の呑み込みが悪く道路冠水しているところが見られた。雨水樹が約4万個に対し、年間の清掃個数が2千個程度では、適切な清掃が行えないのではないかと考えます。日頃から市民の方々に家の前の雨水樹の落ち葉や、土砂などの清掃をしていただくなど、市と市民の協働による取り組みにも努めるよう要望をしました。